

「第6回(3月)～第9回(9月)私たちのひろばで出された意見」

<女性連合との関わりの中で、良かったこと>

- ・人との繋がりがたくさん与えられた。
- ・奨学生を支えることが出来た。
- ・ざっくばらんに話すことが出来る。
- ・zoom で身近に感じる。
- ・実行委員となり、見えてこなかったことが知らされることは大きい
- ・出会いと交わりの恵みが大きい。
- ・奨学生になった。大変だけどそれ以上に恵みがあると背中を押された。
- ・実行委員になったこと、とても良かった。一つとなって奉仕ができ良い経験となった。
- ・教会だけではなく、色々な先輩に様々教えてもらいながら過ごしてきたこと感謝。
- ・天城での女性大会で祈りのカードを交換し祈り合った方と今日再開でき嬉しい。
- ・教会を通して地方連合を知ること、地方連合を通して女性連合を知ることができた。
- ・女性連合の働きで世界を知ることができた。日常は、自分の生活に埋没してしまったり、新聞を読むことぐらいしかないが、女性連合に関わったり、宣教師の働きを知ることで、もの見方を学んできたことはとても大きな事だと思っている。
- ・女性連合の独自の働きとして浅見先生の時代から戦争というものに対してもきちっと取り組んできた。この働きがなかったら、宣教師は送るのも、力のある者が伝えていくと言うことになっていたのでは。
- ・共に生きることや現地から発信したものを受け取る大事さを女性連合から受けてきたと思う。
- ・宣教師を送ると言うことは、直接の目標だったが、団体としての喜びは、交わりとエンパワーメントにあったのかなと思う。女性連合の本質は、そこにあったのでは。

<課題として感じていること>

- ・担い手不足で仕事が増えた。
- ・自分、家庭、教会の先の地方連合の事になると「お任せ」になる。女性連合の事まで自分事としてもらうのは、難しい。
- ・組織としての事務仕事が多くて、本当に大切な交わり、内容が深められないのは残念。
- ・女性会のイメージが既婚者。
- ・女性連合や連盟からの発送物が処分され情報が入ってこず困っている。女性連合の情報は、ホームページで確認している。
- ・教会でも地方連合でも役員のみならず手が足りない。若い人たちも忙しく教会に来るのがやっという状況で、時間のある人がやるしかない状況。
- ・実行委員もこれまでやってきたような事を同じように行うのは難しいだろう。多くの方が仕事を持っているので、3日休むのは大変。なり手がいないだろう。
- ・今、何故理念をいじる必要があるのか分からない。女性連合ステートメントの理念
 - ・抑圧・使命の中身が分からない。みんなが共感できるシンプルな言い方はないの

か？具体的なようで、ざっくりしたものになっている。

- ・女性会で献金の話ばかり出る。
- ・高齢化、これからを担っていただく若い世代とのギャップ。今までのような運び方では立ち行かないと思う。
- ・連盟に所属しているけれど、信徒活動には参加しないよ！と明言する教会も出ていて、世界祈祷は教会を上げて協力し、アピールもするしささげても行くよという教会もある。女性はいるけれど、忙しくて礼拝に参加するのが精いっぱいという、特に若い世代が増えている。
- ・オンラインの影響もあるが、教会に来ているのに孤独を感じる。働きや活動はもっとシンプルにするべき。私たちがまず疲れていることを認め、自分たちが喜んで教会に集って行ければ、若者たちも興味を示してくれるのではないかな。
- ・女性会で世の光の機構改革の記事について分かち合うが、女性連合に加盟はしていても、女性連合の働きに関心がなく、また応答がない。なぜビジョンを話し合うのか？という声も上がる中、9月の世の光の時代の転換点の記事がとても参考になり、理解を深めて頂けるのではないかなと思った。この時代、また何故女性と男性が分かれて活動しなければ行けないのか・・・という意見もあるが、女性会の皆さんの思いが少しでも女性連合に向くように、自分の教会から働きかけたい。
- ・女性連合も50年の歩みの中で、働きありき、活動ありきにどうしてもなっていってしまった。最初は「これやりたいよね」という思いだけで始めた事も、初代の人たちがいなくなると働きだけが残って行って、この働きを残さなくては・・・という風になっていたと思う。

<これからへの期待>

- ・草の根的にオンラインをうまく使っていければいいのでは。
- ・学びながら繋がりたい。
- ・多くの出会い、祈り合っていけること。
- ・祈祷週間、世界に目を向けるその先、女性たち、自分たちの立ち位置を学び、エンパワーを目指していければ。
- ・マンパワーを使わないで、ネットワークと働きを。
- ・「ひろば」も細々でも継続することに意味があるだろう。さらに広がるようにと願う。
- ・ざっくばらんに話し合えるような女性連合に。読書会、学び会、『世の光』を一緒に読む会。聖書の学び。離れていても分かち合い、励まし合えれば。
- ・「ひろば」に初めて参加できて嬉しい。入るには勇気が必要だった。みなさんと話ができるのがいいと感じた。このような「ひろば」が全国の女性会で気楽に参加できて、分かち合えればいいと思う。
- ・オンラインでグループに分かれて話し合いをしたい。対面ならでは、集まった人たちと知り合えるような機会が欲しい。
- ・やりたいことを地方連合主催の企画に、他の連合も参加できるような形にできれば。
- ・女性会と地方連合で担えないことを女性連合がフォローして地方連合の働きを軽くできれば。

- ・沖縄(命どう宝)の日、小羊会の働きが大切
- ・女性連合を我がこととしてもらうには、顔の見える関係になることが大事なのだろう。
- ・女性連合も連盟も、今勢いがなくなり火が消えそうだけど完全に消えたらまた火を起こすのは大変。消さずにいきたい。どんなに小さくても火がついていたら燃え上がるときがくると思う。
- ・女性連合のキャッチフレーズを!「愛される女性連合」を意識して楽しんでいけばいいのではないか。
- ・「できない」を言えるようになることも大切。それが言えない組織は異常組織なのではないか。
- ・AIが進んでいる社会だが、やはり交わりが欲しい。それを豊かにする意味でITを活用したら良い。
- ・みんなが理解できる働きだと、応援したり互いに力になれるのではないか。しかし今、やることを絞っていく事が大事な時期だと思う。
- ・女性連合が全国女性会のまとめ役として、あり続けてほしい。一つの教会ではできないことを、取りまとめてほしい。
- ・女性連合に対するイメージは、新参者が入りにくいところ。一人で参加する人の居場所がある総会にしてほしい。
- ・女性連合となっても、単身者が入りにくかったが、いろいろな立場の女性が入れる場になってほしい。
- ・コロナを経験し、全体的に教会も女性会も疲弊しているところがあるのではないか。内側から元気にし、力をもらえるようなことを女性連合に期待する。
- ・世界伝道の話では今まで連盟に依存したやり方、すなわち献金を集めて献金を渡すことをしてきたが、これから変わっていききたい。
- ・今までは国外に宣教師を出すことに一生懸命になっていたけれども、国内の多国籍の方々と共に礼拝をし、生活をしていくということに目を向けていききたい。
- ・東京と地方の温度差があると思う。全部統一していくには無理があると思う。近隣の教会とかブロックの教会とか地方連合とで顔を合わせて、いろいろ情報交換ができたり話し合えたりというところで、「わたしはこれを祈りたい」ということを選び、祈りあい繋がるのが大切ではないか。
- ・アジアの女性たちとのつながり、福島のこと、プリのことなどで、女性たちのネットワークの強さを感じることができた。
- ・大きな柱さえあれば、年齢や関心ごとで分けて活動しても良いのではないか?それによってつながりができるのではないか?
- ・助けて!と呼びかければ応答しあえるネットワークーそれが女性連合。これからも大いにしていきたい。
- ・一つの教会で何かするのが難しくても、教会間で協力すれば色々な可能性が広がると感じている。女性連合もまた同じだなと感じている。
- ・連合のブロック集会を行った。人と人が会う事が、こんなにも嬉しい事で、大事な事であるかと、対面の大切さを実感。ビジョンを語り合いたいなら、まずは会って話をして、そこから何か課題が芽生えて、現実化していく。という流れになっていくと思う。

<「後継者」の育成>

- ・後継者育成・働き人養成ではなく、むしろ神様に仕えることは本当に嬉しいことであるということ発信していく、そういう育成でありたい。
- ・後継者は、人数は少ないがでも確実に育っている。必ず育っていくと信じている。
- ・若い人たちが子育てしながら、仕事をしながらでも生き活きとできることを構築していくことを見守る事が大事。中心にいた人たちも手を出さずに、若い人たちを信頼し任せていく。その構築したものが次の時代の人たちの組織になっていくのだろう。
- ・女性連合でも若い人たちと高齢の人たちとの交わりがあれば、何が負担で削っていけば良いのか、若い人たちから色々アイデアは出ると思う。
- ・後継者育成は、組織を後継するのではなく、信仰を後継してほしい。

<『世の光』に関して>

- ・『世の光』を読むことが楽しい。知らない事が知れた。
- ・『世の光』サロンは癒しだった。またやって欲しい。
- ・zoomで他教会の方と『世の光』「例会プログラム」を読む会を持ってきた。違った視点を与えられ恵みの時だった。
- ・「心に鍼」の執筆者を囲む会などができれば嬉しい。
- ・『世の光』キャラバンで色々話しを聞き、女性連合や地方連合がとても身近になったと思う。それはとても楽しかった。
- ・女性連合が主催してzoomで『世の光』を読む会をしたら。何も準備せずとも参加でき、『世の光』さえ持っていれば参加できるように敷居を低くして、一緒に読むことでエンパワーされていくのでは。ぜひ、具体化して欲しい。
- ・どこに行っても女性会では「世の光」を用いて学んでいたこと、そこから世界について学び自分のこととして考えて行くことの大事さを知った。

<これからのビジョン>

- ・トヨタ自動車のミッションがわかりやすいし感激した。
- ・トヨタのミッションステートメントのように言えば、みんなが幸せになるために、私たちは神さまの下に集まっているイメージをどのように共有していくか？ということではないか。
- ・女性連合で vision ができても、教会内と地方連合内でのすり合わせが大切ではないか。

(参考まで)

トヨタ自動車のミッションステートメント

わたしたちは、幸せを量産する。

だから、ひとの幸せについて深く考える

だから、より良いものをより安くつくる。

だから、1秒1円にこだわる。

だから、くふうと努力を惜しまない。

だから、常識と過去にとらわれない。

だから、この仕事は限りなくひろがっていく。

問) あなたはどんな世界を望みますか? どんな社会を実現したいですか?

- ・自由な社会、平和な世界、互いを思いやる世界
- ・「つながりあう」いろいろな国の人と分け隔てなく。
- ・今の時代に生きている人が安心する、心の居場所になれたら。
- ・孤独にならない社会を。教会の役割は大きい。
- ・安心できる場所が一人一人持てる社会
- ・助けてと言える社会

<その他、感じていること、考えていること>

- ・変革の中のビジョンに具体的にどう繋がれば良いのか。
- ・世界を考えるのも大事だが、メンバーとしての働きにつなげていかないと行かないのでは。
- ・ひろばの回を重ね具体化が見えていかないと関心がなくなっていってしまうのでは。
- ・女性連合が一つとなってやってこられたのは、宣教師を派遣し支えることの誇りと祈りが平和につながっていた。だからみんなの気持ちが集まって加わりたい、加わっているのだという気持ちを持てたことから考えると、これからは、個人の意識改革である。個人が何に、心が揺れ、祈りたいと寄り添いたいと思うかだと思うので、大きな組織ですごく組織立った中でやると、自分がその一端になっているという自覚が持てない。
- ・教会員になったとたんに、次々と知らぬ間に期待される身になった。教会は重荷を下ろす場である。今の教会は働きが多すぎる。シンプルに信仰を喜び合い、感謝し合い、神様を見上げ、教会で力を得て世の中に出て行ったら、イエス様を信じるとはそういうことか。と思ってもらえるのではないかな?
- ・女性連合は、そもそも全国と繋がって、さらにその先にアジアと繋がって、その先は世界に繋がっている。世界宣教の第一が自分の教会。私の教会が世界宣教を担っているのである。
- ・対面が少なくなってオンライン便利になって、ぬくもりや体温が感じられない。ゆっくり交わりができなくなったことを感じている。教会に来ているのに孤独を感じる。人間らしい思いを教会の中でも感じられない。
- ・女性連合が今まで培ってきたもの、大事に抱えてきたもの一失うことは怖いはず。もともと私たちは本来持っている物はないはず。もう一度手放すことを促されているような気がした。
- ・ネット文化になり「共同体」が求めるひとが少なくなっているのではないかな。
- ・今、何故理念をいじる必要があるのか分からない。女性連合ステートメントの理念・抑圧・使命の中身が分からない。みんなが共感できるシンプルな言い方はないのか? 具体的なようで、ざっくりしたものになっている。
- ・教会の女性会は、日々のみ言葉に触れて繋がり合うことを大事にしているが、女性連合

の働きが何かを考えると、具体的によく分からない。目指していることが分からない。課題をストレートに伝えてほしい。

- ・閉塞感・疲労感・焦り・重かったことをじかに感じた。行き詰まりもあるし、このような大きな課題を役員会に背負わせて良いのか？どこにどうしたいのかを考えないと、心の持っていくようがないと思った。コンパッションが女性連合の合言葉になっていくのかな。
- ・これからを考える中で、女性会に限らず壮年、青年に声をかけ、寺田るかさんをお招きして講演会を持つ事を計画している。
- ・今年度やっと普通の集會が持てるようになり、今後の女性会について話しあう懇談会を持った。話し合いの結果、女性会をやりたいよね。言う事になり、明日コロナ後始めて女性会を行う予定。教会でおしゃべりをしたいという動機と、自分に何か出来る事はないか・・・というものが合わさった感じの企画で「手作りの会」をしている。
- ・今、ビジョンから見直そうというお話しになっているが、「どんなビジョンを描くか」、「未来にこうなっていたい」という主語が全部「私」という事に気づかされた。ビジョンの主語は「神」なんですよね。神が示す道に、私たちが聞き従うのみであると。私たちが自分自身を喜んで、神が何を求めているのかなと言う事にもう一回フォーカスを充てて、進めて行ったら、自ずと道がと示されるのだと感じた。
- ・自分自身も子育て時代にPTA役員を回避するために、自分の大変さをアピールする人がたくさんいたが、一人で重たい米俵を担ぐのではなく、みんなが一合ずつの米を持ち寄るように分かち合って働きを担える働き方を模索したい。
- ・「これからの国外伝道検討委員会」によると、女性連合の指針が決まらないうちに進めないと言っていたが、これからの女性連合も事柄がつながっていく中で、でこぼこ道であっても方向性が決まれば良いと思ひ祈っている。
- ・自分は何も意見を出すことはできないが、誰かの発言や意見を聞くことによってvisionや理解が広がっていくのではないかと思う。何かを作り上げるのに、visionが大切なことはよくわかった。